

令和元年度「知事と市町長の1対1対談」(御浜町) 概要

- 1 対談市町 おおはた さめる 御浜町 (大畑 覚 御浜町長)
- 2 対談日時 令和元年7月29日(月) 11:00から12:00
- 3 対談場所 御浜町役場 3階 くろしおホール
- 4 対談項目1 高速道路の早期完成について
対談項目2 高速道路の早期完成に向けた御浜町の取り組みについて
対談項目3 地域振興のための観光について
- 5 対談概要

対談項目1 高速道路の早期完成について

(町長)

我が町に高速道路が事業化されたことは大変な喜びであり、高速道路がもたらす大きな整備効果に期待を膨らませているところです。知事は政策集で、紀伊半島を一周する高速道路の整備促進を約束いただいています。高速道路の早期完成のため、引き続き、お力をお貸しいただきますようお願いいたします。

紀南病院では、高速道路の整備が進み、三重大学付属病院などの第3次救急医療施設への搬送時間が短縮しましたが、重症患者の救命にはさらなる時間短縮が必要です。紀南病院は災害拠点病院に指定されており、災害発生時には傷病者の受け入れ拠点として機能することが求められますが、国道42号だけでは紀南病院が孤立するリスクがあります。

御浜町では、年間約8千トンのみかんを生産しており、ピーク時には1日200トン、10トントラック20台以上で中京市場などへ出荷しています。高速道路の整備が進み、輸送時間の短縮、輸送コストの縮減、輸送時の揺れによる荷痛みが減少したことで、みかんを有利に販売できるようになりました。高速道路は、すべての地域産業活動に寄与する道路であると期待しています。

今後とも、紀伊半島を一周する高速道路の早期完成のために、沿線の市町長や地元の方々と協力し、国に強く働きかけていきますので、引き続きご支援、ご協力をいただくとともに、和歌山県と連携した取組をお願いします。

7月6日に地元説明会を開催したところ、「いつ完成するのか」という期待の声が多くあり地元の関心も高いです。国道42号は落石等で通行止めになることも多いですが、高速道路が開通することで不安解消にも繋がり、大きな期待が声となって出てきているので、ご支援、ご協力をお願いします。

(知事)

今年度、紀宝熊野道路の新規事業化が決定し、地域の悲願であった近畿自動車道

紀勢線の全線事業化が実現したことを大変嬉しく思っています。町長をはじめ、東紀州に高速道路をつくる会の垣内会長や、紀南病院の須崎院長など多くの方にご参加いただき、熱い思いや生の声を、しっかりと国に届けたことが非常に効果的であり、ご協力に感謝いたします。

紀宝熊野道路では、令和元年度、調査費 1 億円が予算化されており、一部区間で測量や地質調査、設計等が進められる予定です。熊野道路については、地権者のご理解のもと、現在約 7 割（6 月末時点）まで用地買収が完了しています。また、工事費が予算化されて、熊野大泊 IC 側に接続する熊野宮川橋下部工事 2 件が公告されており、8 月上旬に開札予定となっています。新宮紀宝道路においても、用地買収の進捗率が約 96% となっており、熊野川河口大橋（仮称）や紀宝 IC（仮称）のランプ橋などの工事が次々と進められています。

紀宝熊野道路の全体事業費は 850 億円であり、事業化されている熊野尾鷲道路（Ⅱ期）、熊野道路、新宮紀宝道路の 3 事業の合計事業費 960 億円に匹敵する規模となります。

高速道路の紀伊半島一周の早期実現のためには早く多くの予算を獲得することが不可欠であり、引き続き紀勢線の必要性を国にしっかりと訴えていくことが重要です。両県で構成する近畿自動車道紀勢線建設促進協議会において、要望活動等に取り組みます。令和元年度は和歌山県が事務局であり、取組内容については調整中です。

7 月 11 日に開催された紀伊半島知事会議においては、紀伊半島アンカールートの早期整備についても議論し、今後、国に提言を行っていく予定です。

町長をはじめ沿線市町や地域の方々と協力し、国に直接訴える要望活動にも取り組みます。引き続き、ご協力をお願いします。

対談項目 2 高速道路の早期完成に向けた御浜町の取り組みについて

（町長）

近畿自動車道紀勢線は、救急医療や災害時における救助活動などの人命に関わることだけでなく、この地域の経済を支えると言う意味においても命の道の役割を担っていると考えています。

高速道路の早期完成に向けた本町の取り組みにつきましては、今後も国や三重県、そして地域の皆さんとも連携し、円滑な事業の進捗を図ることができるよう努めてまいりますので、知事におかれましても更なるご支援をいただきたいと思います。

御浜町では、これまで整備予定区間のルート帯を中心に先行して地籍調査事業を進め、すべての整備予定区間で事業に着手することができました。今後とも国土交通省と連携し、速やかに用地取得のスキームに移行できるよう当該事業の完了を目指しますので、ご配慮をいただきますようお願いいたします。

さらに、新規事業化を受け、用地取得が円滑に進められるよう、また、本町として積極的に協力していくことを示すためにも、熊野市や紀宝町に続き、新年度から近畿道紀勢線推進プロジェクトチームに職員を派遣したいと考えています。引き続き、県の財政的な支援を含め、ご指導をお願いします。

(知事)

地籍調査については、紀宝熊野道路の新規事業化を目指して、予算の確保や人員体制の強化を図りたいとの強い要望をいただいていたので、平成 28 年度から地籍調査にかかる予算の重点的な支援を行ってまいりました。

御浜町におかれましては、人員と独自予算の確保を行っていただくだけでなく、災害対応に資する地籍調査に対して全体として取り組むとおっしゃっていただき、とてもありがたく思っています。地籍調査の着実な推進に向け、県としても全力を尽くしていきたいと考えています。

平成 29 年度から設置している近畿道紀勢線推進プロジェクトチームは、石井国土交通大臣からも用地買収の精鋭部隊として高く評価をいただいています。

町長から近畿道紀勢線推進プロジェクトチームへの御浜町職員の派遣について申出をいただいたことは、大変心強く、深く感謝申し上げます。なお、受け入れにかかる詳細な協議につきましては、担当部に指示させていただきます。

「いつ完成するのか」という問いに対しては、用地買収が進んだり予算確保ができたりといったことが高速道路の完成の時期を明確にする要素であります。その第一歩である用地買収を円滑に進めるべく、連携・協力していきたいと思えます。

対談項目 3 地域振興のための観光について

(町長)

平成 30 年 11 月に積水ハウスとマリOTT・インターナショナルによる御浜町へのホテル進出が正式に発表され、現在令和 2 年秋の開業に向け、準備が進められているところです。

人口減少が進むこの地域の経済にとって、このような動きは大きなチャンスであるにとらえています。そこで、本年 1 月には、地域振興のための観光基本方針を策定し、外国人をはじめとした旅行者による消費が、人口減少に伴って減少していく地域内消費の代替となり得るという可能性に焦点を当て、観光振興に取り組みたいと考えております。

現在、令和 2 年 6 月に外国人観光案内所をオープンできるように整備を進めているほか、小売店や飲食店の旅行者への対応力強化や起業について支援を始めているところです。

これからも、受け入れ態勢の整備にスピード感をもって取り組んでいきたいと考

えておりますが、御浜町における観光振興は、スタートしたばかりであり、御浜町だけの取組には限界もあります。

外国人旅行者からみて、この地域を訪れてみたいと思わせ、また満足して帰っていただくためには、三重県をはじめ、伊勢からこの東紀州地域までの市町の連携はもとより、三重県と和歌山県、あるいは奈良県との広域連携をさらに進め、受入環境を整えていくことが重要であると考えています。三重県におかれましても、より一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

現在、御浜町地域おこし協力隊の一人が、観光案内所の運営を委託している田辺市熊野ツーリズムビューローで研修を受けています。観光庁へ派遣中の御浜町職員も、戻ってきた際は観光のためにしっかりと取り組んでもらえると期待しています。また、民間の活力を生かすため、商工会と連携しながら、宿泊施設等における外国人の受入れに対する支援にも力を入れ、民間の方と一緒に取り組んでいきますので、ご指導をよろしくお願いいたします。

(知事)

御浜町におかれましては、観光の節目を迎える時代に入り交流人口をさらに増やしていくチャンスが来ているので、県としても連携していきたいと考えています。

県も発展途上ですが、ドイツやフランスの取組を参考に、今後はデジタルの情報発信に力を入れていかなければならないと考えています。紙媒体のチラシやポスターの代わりに、デジタルで情報発信することにより、広く発信することが可能となり、国内外の観光客にとっても情報が受け取りやすくなります。諸外国に後れを取らないためにも、デジタル媒体の活用が極めて重要と考えています。

また、受け入れ環境整備については、平成30年度に引き続き、宿泊施設等に外国人アドバイザーを派遣して、外国人の目線を生かした助言を行います。こうした取組と、町や商工会で創設された外国人旅行者の受入環境整備の支援策とが連携することにより、相乗効果が生まれ、民泊や地元料理の提供などの新たなサービスの創出につながっていくものと考えます。

広域での連携については、平成29年から、田辺市熊野ツーリズムビューローとの連携を本格的に始めたところですが、外国人旅行者向けの看板やサイン、標記方法の広域的な統一を課題の一つと捉えています。しかし、既に整備した標示もあるため、今後、関係機関や団体の協力を求めながら、徐々に整合を図っていきたいと考えています。

同ビューローからは、田辺から伊勢までを熊野古道でつなぐ取組を提案いただき、先般、同ビューローと伊勢市観光協会との懇談の機会を設け、連携して取り組んでいくことを確認したところです。さらに同ビューローからは、受入環境整備の一環として、令和2年に外国人旅行者に有意義な情報を外国人目線で整理した熊野古道

伊勢路ガイドブックをつくるという話もいただいております、御浜町との関係でも相乗効果が生まれる取組であるため、こうした動きに対してもしっかりと協力していきます。

令和元年度は、熊野古道世界遺産登録 15 周年であることから引き続きご協力をお願いします。

新宮港ではクルーズ船が年々増加していることから、県境を越えた広域でのクルーズ船誘致にも取り組んでいます。新宮港クルーズ振興広域協議会には、御浜町と県も参加しており、一つのチャンスとして捉えて進めていきます。

平成 31 年 4 月からの観光庁への職員派遣といった攻めの取組は、とても重要だと思います。県としても御浜町の観光の取組と連携したいと思います。